

104-196

問題文

1. ポリクローナル抗体よりモノクローナル抗体を用いる方が、一般に交差反応性が高い。
2. FPIA法の代替測定法として、サンドイッチELISA法はジゴキシンの測定には適さない。
3. FPIA法では、蛍光標識したジゴキシンの抗体と結合することにより、蛍光偏光解消度が高値となる。
4. EMIT法では、抗原-抗体複合体が酵素と結合すると酵素の活性が変化することを利用する。
5. 免疫測定法の代替法として高速液体クロマトグラフィー(HPLC)を用いても、内因性ジゴキシン様物質の影響を除くことができない。

この問題は、正しい選択肢が1つしかないので「解なし」となった問題です。

解答

問196 : 3, 5問197 : 解なし

解説

問196

トラフに近い濃度を測定したかを確認するために、（ア）の質問をしています。また、測定法による濃度の違いの可能性を考えて（イ）、（ウ）の質問をしています。

選択肢 1 ですが

「副作用の有無」を明らかにしたかったわけではありません。よって、選択肢 1 は誤りです。

選択肢 2 ですが

「相互作用の有無」を明らかにしたかったわけではありません。よって、選択肢 2 は誤りです。

選択肢 3 は妥当な記述です。

選択肢 4 ですが

「定常状態にあるかどうか」を確認したかったわけではありません。よって、選択肢 4 は誤りです。

選択肢 5 は妥当な記述です。

以上より、問196 の正解は 3,5 です。

類題

問197

問197 は、厚生労働省発表により解なしです。そのため、解説省略。